

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

立川 真理恵 (たちかわ まりえ)

【所属】(助成決定時)

東京大学人文社会系研究科 韓国朝鮮文化研究専攻 博士後期課程

【研究題目】

韓国絵本の計量的テキスト分析—使用語彙・文体の分布調査及び日本語訳との対照を中心に

【研究の目的】(400字程度)

主要な目的: 韓国絵本の言語的特徴を明らかにし、絵本を用いた言語文化教育の意義を検討すること。一般に、絵本は読み聞かせを前提として描かれることが多いが、小説やエッセイよりも語彙量が少なく、言葉と絵の相互関係が密接であることから、子どもだけでなく外国語学習者の多読教材としての効果も期待される。そのため、近年では韓国語教育の現場で活用される場合も多いが、絵本という言葉に着目した研究は管見の限り見当たらない。読解資料としての絵本の価値を検討するには、まずはその言語的特徴を調査する必要があると考え、本研究では絵本コーパスの構築と語彙分析を試みた。

副次的な目的: 邦訳との対照を通して韓日絵本翻訳に有用な情報を提供すること。日韓両言語は類似点が多いものの、原書の世界観を尊重しつつ読み手にとって自然な表現を選ぶことは難しい。更に、絵本では言葉だけでなく絵を読み解く技術も必要である。このように絵本翻訳には特有の難しさが存在する。本研究ではこの点も考察対照として調査を継続する。

【研究の内容・方法】(800字程度)

研究内容: 第一に絵本原書における品詞分布と使用語彙の難易度の調査を行うとともに、絵と言葉の関係性について検討する。まず、小規模なデータで絵本の語彙分布と難易度の予備的な調査を実施し、更に分析対象を拡張して計量的な調査を行う。第二に、翻訳テキストとの比較を通して、語彙・文体・言葉と絵の関係性という観点から翻訳の特徴に関して総合的に考察を行う。

研究方法:

(1) **絵本のテキスト分析—使用語彙の分布調査:** 韓国国内の絵本専門書店およびオンラインショップで絵本の原書を購入後、絵本の文字部分を人手入力により電子化する。データは蔚山大学校韓国語処理研究室が開発した「Utagger (Ver.2.1.2)」を用いて形態素解析を行う。次に、頻度計算プログラムで作品ごとの延べ語数と異なり語数、実質語彙(文法語彙以外)の分布を調査し、全体における高頻度単語を品詞別に整理する。特に出現頻度が高いと推測される4品詞(名詞・動詞・形容詞・副詞)に関しては、語種分析と難易度分析を行う。その際、『標準国語大辞典』(국립국어연구원)の語種情報と『合格トウミ 初級編/中級編/上級編』(ハングル能力検定協会)による語彙等級情報を使用する。なお、絵本特有の語彙的特徴をより明確に提示することを目指し、既存の語彙調査報告書(국립국어연구원『현대 국어 사용 빈도 조사』, 2002年)との比較も併せて行う。

(2) **日本語版との比較:** 日本語訳と原作の記述が異なる箇所を抜き出していく。その際、語彙や文体、表現といった言語的な変化だけでなく、言葉と絵の相互関係の変質や文章の配列・文字間の空白や改行といった構成上の変化にも着目して総合的に調査を行う。そして、収集データを基に韓→日間の絵本翻訳に影響する要因を検討し、類型別にリスト化したものを提示する。

【結論・考察】（４００字程度）

まず、途中段階の分析結果を学会誌に投稿後、構築作業を継続した。期間中に入力した冊数は106冊、データの規模は延べ語約80,000語・異なり語約7,500語である。以下に現時点の調査結果を簡潔に記す。

語種分布：韓国語は漢語が豊富な言語だが、絵本では全体的に固有語の比重が大きい。その要因としては、絵本では読者（多くの場合は子ども）に馴染みのある高頻度の固有語が好まれる傾向にあること、硬い印象を与える常用外の漢字語が避けられる傾向にあること等が考えられる。

難易度分布：延べ語では初中級語彙が占める割合が圧倒的に高いが、異なり語では上級語彙や等級外の語彙も豊富である。このことから「絵本の表現は平易なので初学者にとっても読みやすい」と一般化する態度は妥当ではないことが分かる。語学教育の立場から考えると、寧ろ「言葉と絵の相互作用を通して、現地の子どもが自然と身につけていく生活文化語彙やオノマトペ等に親しむことができる」という点に意義がある。

今後の課題：当初の予定よりもコーパスの構築・分析に多くの時間を費やしたため、邦訳との対照は十分に行うことができなかった。そのため、入手した邦訳絵本を用いた本格的な対照分析は今後も継続して実施する。